

日時：R5 11月11日

場所：きりしま総合発達支援センター（Zoom）

SCERTS 勉強会

講師：くらしき作陽大学 瀬戸山 悠 先生

○ビデオを見ての症例検討

- ・H君のSAP目標

子どもの目標	大人の目標
JA2.3 社会的パートナーの注意の焦点をモニターする	IS1.2 子どもの情動やペースに同調する
JA2.4 意図を表す前に自分への注意を確保する（呼びかけ）	IS1.3 コミュニケーションの手がかりに応じるために、子どものシグナルに適切に応じる
SU2.4 表情やイントネーションの手掛かりに対して応答する。	IS2.3 始発のターンと応答のターンのバランスをとる
MR1.1 ネガティブな情動とポジティブな情動を共有する。	LS2.4 情動調整を高める為に、補助的なコミュニケーション支援を用いる
SR2.2 覚醒水準を調整するために、パートナーがモデルとして示した行動方略を使用する。	LS4.7 活動に動機づけとなる材料やトピックを取り入れる。

- ・ニーズと個別支援の目標、支援の方向性

ニーズ：①会話のキャッチボールが出来るようになってほしい②買い物、まっくなど行ける所が増えてるので、色々な経験が出来ればよい。

短期目標：楽しい気持ちの時に、呼びかけるなど、気付いてもらって相手と一緒に活動する事が出来る

長期目標：相手を誘って新しい活動、体験をする事が増える。

検討した支援：他者へのアイコンタクトを向けている事が増えている。人と一緒に活動する事が楽しい、安心を基盤として、いつもと違う事（遊び・活動）を行っても大丈夫と言う機会を作っていく。

・変化がある事に対して不安があるので、そんな場面でも要求したり、追加の情報を貰ったりする事で達成できる機会を作っていく。

・本人へ要求のモデルを示して、エコラリア様に要求があった際も、応じ手（大人）が情緒的に応答して、伝わった安心感などを作っていく。⇒やりとりへ繋げる。

・1つの遊びでも、数や大きさなどを変える。（遊びの中で概念を広げる）変えても意図が分かる様に視覚支援を用いて、本人の理解を支える。